

週報

こひつじ

第41巻 5号
 大津キリスト教会
 菊池郡大津町室 119
 TEL 096-293-4470
 FAX 096-293-4961
 牧師 米村 英二

すべてのことを見分けて

その三 小さな親切の実践

人生とは、すべてのものを見分け、良いものを選ぶことからなっていると言ってきた。

ところがよく検討し、調査した

にもかかわらず、間違った判断をした人がいる。イエスが語られたあの金持ちだ。(ルカ一二の一六―二二)

彼はなぜ「愚か者」と呼ばれたのか。

金持ちであつたからか。もちろんそうではない。

むしろ愚かさのゆえに貧困に陥ってしまう人の方が多いのではないか。そういう人を聖書は戒めて言う。

「なまけ者よ。蟻のところへ行き、そのやり方を見て、知恵を得たからである。」

よ」「なまけ者よ。いつまで寝ているのか」「だから、あなたの貧しさは浮浪者のように、あなたの乏しさは横着者のようにやって来る」

(箴言六の六―一二)

しかしこの金持ちの畑が豊作だったのは、愚かどころか、賢く勤勉に働いたからである。

彼は、自分の労した分を得たのだ。おそらく彼は、何をいつ、どのようにに蒔けば、どれだけの収穫があるかについても研究熱心だったのだろう。

そしてその年は、予想以上の豊作で、とても自分の倉には納めきれないとわかったのだ。

なぜそれがわかったのか。計算

彼はどんぶり勘定で農場の経営をやる人ではなかったのである。どんな仕事をするにも計算は必要なのではないか。

『婦人の友』の創刊者羽仁もと子は、家庭不安の要因が不確かな経済生活にあることを知って、家計簿を考案し、予算生活を家庭の主婦たちに実行させる運動を起こした。みるみるうちに多くの家庭庭ができていった。

こう考えると、この金持ちが立ち止まって、自分の畑の収穫量を測定したのは正しい。そして収納できないとわかると、こう言った。「あの倉を取りこわして、もっと大きいのを建て、穀物や財産はみなそこにしまっておこう」

これもまた、決して不道德なことでも愚かなことでもないように私には思われる。

彼は、とりあえず貯蓄しておこうと考えたのだ。それは、賢明な判断だったのではないか。

多くの賢い人は、貯蓄を奨励してきた。

明治の頃、東京大学の教授だっ

た本多静六という人は、給料の四分の一を貯蓄に回し、四分の三で生活した。すると四〇歳の頃には、彼の貯蓄の利子が、彼の給料を上回った。晩年、老夫婦だけになったとき、老後に必要なものだけを残し、財産のすべてを社会事業にささげた。生涯、質素な生活をしたのである。

ヨセフも、貯蓄を進言して、エジプトの総理大臣となり、国家の窮乏を救ったのではなかったか。聖書は蓄えることを、悪いとは言っていない。

ではあの金持ちはどこでまちがったのか。彼の過ちはどこにあったのか。

一言で言えば、神を計算にいれなかったことだ。

彼は思った。この富も豊作も、自分の力と才覚によって得たのだ。自分の努力で得たものを、自分の好きなように使って、なぜ悪いと。そして言った。

「たましいよ。これから先何年分もいっぱい物がためられた。『さあ、安心して、食べて、飲んで、楽しめ』と。」

しかし、彼の命も健康も能力も、うか。

もともと神のものではなかったか。彼は言う。他に譲れ、社会に還その年の豊作も、一方的な神の恩恵によったのではなかったか。

それなのに彼は問わなかった。まさこれがイエスのなさったことではないか。彼はご自分の命を惜しみなく与えて、私たちを生かしてくださったのだから。

なぜ神は、これほどまでに私を祝福されたのか。与えられたこの富は何のために使うべきなのかと。私は一六歳のときクリスチャンもし、そう問うていたなら、彼には、まったく別の道があったことだろう。

別の道とは、その富を用いて、より多くの人を祝福するという道である。

そのためにこそ、神は、彼に多くを与えられたのではなかったか。有名な説教者ジョン・ウェスレーは金銭の扱い方について言った。

「できるだけ得よ。できるだけ蓄えよ。そしてできるだけ与えよ」と。

金銭の最終のゴールは、彼によれば、与えることにあった。

二宮尊徳も同じことを「勤・儉・讓」という別の言葉で説明した。勤勉に働き、質素に生活すれば、どうなるか。

当然、金が残る。それをどう使

私の残された人生が、小さな親切の実践のために用いられたらと思う。

***** (終) *****

今日の礼拝

○第一礼拝は午前一〇時から、
第二礼拝は午前一一時から。

○教会学校は午前一〇時から。
○説教は米村牧師。

先週の礼拝

○司会は岩崎宏志さん、説教は、一ヨハネの手紙から古いが新しい戒めである愛について語りました。

○礼拝参加者は、第一礼拝が四名、第二が三名、合計八〇名（男二七、女五三）。それに子どもが五名、合わせて八五名でした。

牧師身辺

一月二七日に札幌から帰ってきました。先週の週報にも書きましたように学院での第一日目の講義を終えたあと、微熱が出

て、もしかしてインフルエンザであれば、学生たちに迷惑をかけると思い、翌朝、近くのクリニックで検査してもらったら、コロナと診断され、驚きました。それから五日間の隔離です。結果的には、よい休養となりました。妻のことが心配でしたが、不思議に感染することなく、今も元気です。

帰ってきた数日後、新しい本が出来上がって、送られてきました。今度の本の題は『イエスの処方箋』。ヨハネの福音書からの説教集です。

表紙の絵は、日本画家戸田みどりさんの力作「生ける水」です。毎回、すばらしい絵を提供してくださって、それがなかったら本を書き続けることはなかったでしょう。

教会の皆さんには、長い間、教会を支えてくださったことへの感謝を込めて、ささやかな贈り物ですが、お一人に一冊差し上げたいと思います。ただし二冊目からは五百円です。伝道に用いていただければ、感謝です。